

アーサー・ビナードについての研究

—— 絵本の朗読と図書館の役割を考える ——

林 伸 一

1. はじめに

アーサー・ビナード (Arthur Binard) は、1967年7月2日にアメリカ合衆国、ミシガン州に生まれた。詩人・俳人、随筆家、翻訳家として知られており、広島に在住している。妻は詩人の木坂涼である。

20歳でヨーロッパへ渡り、ミラノでイタリア語を習得した。ニューヨーク州コルゲート大学英米文学部を卒業しているが、卒業論文を書く際に漢字・日本語に興味を持ち、1990年6月に来日した。来日後、通っていた日本語学校で教材として使用された小熊秀雄の童話『焼かれた魚』を英訳した事をきっかけに、日本語での詩作、翻訳を始めた。現在はエッセイ、絵本、ラジオパーソナリティなどに活動の幅を広げており、日本国内各地で講演活動等も行なっている。

主な詩集としては、『釣り上げては』(思潮社)、『左右の安全』(集英社)、『ゴミの日』(理論社) などがある。訳詩集に『日本の名詩、英語でおどる』(みすず書房) などがある。

絵本作家としての作品には、『くうきのかお』(福音館書店)、『はらのなかのはらっぱで』(フレーベル館)、『ここが家だ ベン・シャーンの第五福竜丸』(集英社)、『さがしています』(童心社) などがある。

翻訳絵本に『ダンデライオン』『どんなきぶん?』(福音館書店)、『あつまるアニマル』(講談社)『ひとりぼっち?』(徳間書店)、『カーロ、世界をかぞえる』(フレーベル館)『キンコンカン戦争』(講談社)『この本をかくして』(岩崎書店) などがある。

エッセイ集に、『日々の非常口』(朝日新聞社)、『日本語ぼこりぼこり』(小学館)、『出世ミミズ』『空からきた魚』(集英社文庫)、『亜米利加ニモ負ケズ』(日本経済新聞出版社) などがある。(以上、<https://ja.wikipedia.org/wiki/アーサー・ビナード>参照)

2. 作品の受賞歴

アーサー・ビナード氏 (以下、ビナード氏) は、詩人、絵本作家、エッセイストとして、以下のような受賞をしている。

2001年、詩集『釣り上げては』(思潮社) で中原中也賞受賞。

2005年、エッセイ『日本語ぼこりぼこり』（小学館）で講談社エッセイ賞受賞。
2007年、絵本『ここが家だ ベンシャーンの第五福竜丸』（集英社）で日本絵本賞受賞。
2008年、詩集『左右の安全』（集英社）で山本健吉文学賞（詩部門）受賞。
2012年、ひろしま文化振興財団、第33回広島文化賞（個人の部）受賞。
2013年、絵本『さがしています』（童心社）で第44回講談社出版文化賞絵本賞、
第60回産経児童出版文化賞ニッポン放送賞受賞。
2017年、第6回早稲田大学坪内逍遙大賞奨励賞受賞。
2018年、絵本『ドームがたり』（玉川大学出版部）で日本絵本賞受賞。

（以上、<https://ja.wikipedia.org/wiki/アーサー・ビナード>参照）

3. 問題提起

上記のようにビナード氏は、詩集や絵本など70点の著作物があり、中原中也賞をはじめ、エッセイ賞、絵本賞、文学賞、放送賞などを受賞しているにもかかわらず、氏の反戦・反核・反原発運動への関わりから、一部で敬遠されることもある。

具体的には、山口市で「山口の朗読屋さん」として老人施設や児童施設を訪問し、紙芝居や絵本の読み語りの活動をしているボランティア・グループが、2019年4月に「アーサー・ビナードとともに平和を考える朗読+お話会」を企画し、山口県立山口図書館に共同主催を提案したところ、図書館長と副図書館長に共同主催を拒否されたという事情がある。共同主催拒否の理由としては、ビナード氏が反原発論者として、各地で講演活動をしていることを挙げ、「図書館としては、賛否両論ある原子力発電の反対論者を講師として呼ぶ訳にはいかない」つまり「反原発論者は講師にふさわしくない」とのことであった。

館長は、YouTubeでビナード氏の講演を視聴したとのことで、図書館所蔵の本や所蔵リストを見ての判断ではなかったようだった。

提案者としては、図書館で反原発集会をやろうというのではなく、あくまで『さがしています』などの絵本を「山口の朗読屋さん」のメンバーが朗読し、ビナード氏に絵本の著者・翻訳者として解説をしてもらうのが企画の内容であることを説明した。

しかし、その提案は、聞き入れられず、どうしても実施するのなら、図書館との共同主催ではなく、図書館に併設されているレクチャー・ルーム（有料施設）で「山口の朗読屋さん」の単独主催で実施してはどうかとのことであった。

ビナード氏の著作物を60冊以上所蔵しているにもかかわらず、その著者が来訪することを歓迎しない図書館の態度には、少なからず驚き、落胆させられた。もし、ビナード氏を講師として呼ばずに、「平和を考える朗読+お話会」として実施するなら、

館内の研修室を使つての共同主催は可能かと聞いてみた。

すると副館長から、そもそも「平和を考える朗読会」というのが、いけないんだとの耳を疑う発言があった。

「図書館内で平和を考えるというのがいけないというなら、それは問題ですよ」と反論したが、それに対する明確な回答はなかった。

そもそも唐突に、この提案をしたのではなく、背景としては、前年の2018年8月4日に、山口県立山口図書館第2研修室で「平和を考える紙芝居と絵本+お話し会」を「街の朗読屋さん」（のちに対外的に「山口の朗読屋さん」というグループ名を使用）の主催で行なった。朗読会では、『のばら』『平和のちかい』『峠の老い桜』『父のかお母のかお』などの紙芝居や大型絵本『かわいそうなぞう』翻訳絵本『おしっこぼうや』（ウラジミール・ラドゥンスキー作／木坂涼訳／セーラー出版）『火のカップ』（うるしばらともよし著／やまなかもこ絵／国土社発行）などの絵本の朗読、沖縄の相良倫子さんの詩「生きる」の群読も行った。当日は、毎日新聞をはじめ、宇部日報、長周新聞の取材を受け、後日取材記事がそれぞれ掲載された。

2018年8月の朗読会は、「街の朗読屋さん」の単独主催であったが、山口県立山口図書館第2研修室で30人ほどの参加者とともに実施することができた。その後、「福田百合子先生を囲む朗読+お話し会」を同図書館第1研修室で2019年1月13日（前編）、2月24日（後編）の両日実施した。中原中也の『汚れっちまった悲しみに…』（福田百合子監修／石井昭影絵／新日本教育図書）をテキストにして、「山口の朗読屋さん」のメンバーが中也の詩を朗読し、中原中也記念館名誉館長の福田百合子先生に、中也の詩の背景や内容の解説、エピソードなどを話していただいた。その時に、副館長から1月、2月の朗読会は、実質的に図書館との共同主催の扱いでかまわないとのお言葉があった。

今後もアクティブ・シニア（活動的な高齢者）を対象とする朗読会で、福田百合子先生のような著名な方を講師にお招きしての企画があれば、共同主催の可能性があるので相談してほしいとお話があった。そこで、4月になって「アーサー・ビナードとともに平和を考える朗読+お話し会」を企画し、提案したのだが、5月に入ってから館長・副館長に拒否されてしまったといういきさつである。前館長は、3月で退任し、4月からは現館長が着任したので、その間の事情がつかめていないこともあったかもしれないが、副館長は継続しているため、その間の経緯は把握してははずである。

映画『ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス (Ex Libris: The New York Public Library)』が、山口情報芸術センター (Yamaguchi Center for Arts and Media) 通称「YCAM (ワイカム)」で2019年9月5日（木）～25日（水）に13回上映された。



同映画では、様々な講演会や読書会、各種講座や学習会などが、「ニューヨーク公共図書館」で開催されており、単なる書庫ではなく、自由なコミュニケーションの場としての図書館の役割が紹介されていた。

「ニューヨーク公共図書館」に比べて、「山口県立山口図書館」が極めてお役所的な上から目線の立場で、事なかれ主義的に運営されているかが明白になる映画であった。山口県立山口図書館だけでなく、山口市立中央図書館も同様の体質である。

菅谷（2003）は、上記の映画よりずっと以前に『未来をつくる図書館 - ニューヨークからの報告』（岩波新書）でニューヨーク公共図書館のことを詳しく紹介している。

4. アーサー・ビナードとともに平和を考える朗読+お話し会

山口県立山口図書館に共同主催を断られたが「アーサー・ビナードとともに平和を考える朗読+お話し会」は中止されたわけではなく、2019年8月11日に山口市教育委員会をはじめ／公益財団法人山口市文化振興財団／中原中也記念館／山口県教育カウンセラー協会／日本語クラブ山口／学校法人YIC学院／ギャラリーカフェつるかめの後援を得て、小郡ふれあいセンター（山口市小郡下郷1440-1）で実施された。

当日は、午後1時半～4時半の三時間、山口市小郡ふれあいセンター集会室で、定員100名が満席の状態、ビナード氏のお話と朗読会が行なわれた。

当日のプログラムを表1に、リレー朗読の分担を表2に示す。

表1. アーサー・ビナードとともに平和を考える朗読+お話し会プログラム

時間	作品名	朗読時間	ビナード氏による解説
13:30	さがしています（リレー朗読）	20分	40分
14:30	ここが家だーベン・シャーンの第五福竜丸 （内藤・田中・高木）	12分	30分
15:15	休憩時間	書籍頒布	著者サイン会
15:30	キンコンカンせんそう（金崎）	8分	20分
16:00	この本をかくして（荒井）	7分	20分
16:30	閉会：後片付け・撤収	書籍頒布	著者サイン会

朗読作品は、『さがしています』（童心社）『ここが家だーベン・シャーンの第五福竜丸』（集英社）『キンコンカン戦争』（講談社）『この本をかくして』（岩崎書店）の4

冊で、それぞれに背景説明や解説を著者・翻訳者のビナード氏にさせていただき、好評であった。

表1を作成したのは、ビナード氏は話し始めると話がなかなか止まらないとの情報を得たため、時間の区切りを明確にし、プログラムの進行をコントロールしやすいようにしたかったためである。当日は、ほぼプログラム通りに進行できたが、4時半の閉会を前に質疑応答の時間を取る予定であったが、実際には、その余裕がなくなり、閉会のあいさつとなってしまったのが反省点である。

表2のようにプログラムの初めの『さがしています』は、山口の朗読屋さんの会員4名と会員以外の石丸義臣（山口児童館館長）高木幸子（山口グローリークワイア）中野綾子（アーサー・ビナード研究会）の3名、ゲスト出演の中原豊（中原中也記念館館長）福田百合子（中原中也記念館名誉館長）2名によるリレー朗読として実施した。石丸義臣氏には、朗読の際のギターによる伴奏もお願いした。

表2. 『さがしています』リレー朗読分担表

頁	写真	担当	主人公
2-3	時計	内藤充子（山口の朗読屋さん）	わたし（女）
4-5	軍手	金崎清子（山口の朗読屋さん）	ソウチ（男）
6-7	弁当箱	高木幸子（山口グローリークワイア）	ほく・レイコちゃん
8-9	ワンピース	荒井佳恵（山口の朗読屋さん）	セツコ（女）
10-11	鉄瓶	田中範明（山口の朗読屋さん）	おれ（男）
12-13	眼鏡	石丸義臣（山口児童館館長）	ほく・タモツおじさん
14-15	ノート	中野綾子（アーサー・ビナード研究会）	わたし（女）サダコ
16-17	鍵束	内藤充子（山口の朗読屋さん）	おれたち（男）
18-19	革靴	金崎清子（山口の朗読屋さん）	ほくら（男）トシユキ
20-21	入歯	高木幸子（山口グローリークワイア）	ほくら・マサタロウ
22-23	バッグ	荒井佳恵（山口の朗読屋さん）	わたし（女）マリコ
24-25	ビー玉	田中範明（山口の朗読屋さん）	ほくら（男）トシヒコ
26-27	帽子	中原豊（中原中也記念館館長）	ほく（男）タツヤ
28-29	銀行石段	福田百合子（同上名誉館長）	わたし（女）

5. 「アーサービナードとともに平和を考える」アンケート集計結果

参加者100名中61名からアンケートが回収された。その内訳は、男性5名・女性38名・無記入・18名で、10代（1名）20代（2名）30代（2名）40代（2名）50代（5名）、60代（13名）70代（9名）80代（4名）90代（1名）であった。

<1>この朗読会をどのようにお知りになりましたか？(複数回答あり)

チラシ (13) はがき (9) 毎日新聞 (3) 知人・友人 (30)

その他(朗読屋さん4、日本語講座1、facebookなど5、福田先生1)

<2>特に印象に残った朗読作品を○で囲んでください。

『さがしています』(29)『ここが家だ・ベンチャーの第五福竜丸』(26)

『キンコンカンせんそう』(22)『この本をかくして』(14) 無記入 (7)

<3>次のどれに興味がありますか？ ○で囲んでください。

リレー朗読 (23) 複数での分担朗読 (12) 一人での朗読 (13) 朗読劇 (15)

<4>次回の朗読会(11月30日・土曜午後「福田百合子がみすゞを語る」朗読+

ハープ演奏+お話、小郡地域交流センター)にも参加なさりたいですか？

ぜひ参加したい (13) できれば参加したい (35) あまり参加したくない (0)

行事と重なっているなどで参加できない (4) 無記入 (10)

<5>住所 山口市 (22) 宇部市 (11) 防府市 (4) 下関市 (1) 柳井市 (1)

飯塚市 (2) 無記入 (21)

<6>ご意見・ご感想をご自由にお書きください。

以下に自由記述の内容を枠内に示すが、文章の末尾に (0) とあるのは、年代・性別の欄が無記入であったことを示す。

5-1. 『さがしています』について

*娘の子供(2歳・4歳)に『さがしています』を出版されたころに買ってプレゼントしました。子供より母親に読んでもらいたかったので、「被爆」を原爆を知るきっかけになる本と思い買い与えました。(女性)

*アーサー・ビナードさんの説得力あるお話に胸が打たれた！8/6、8/9の広島・長崎の原爆記念日がすぎたばかりだったので、よけい心にしみました！戦争はこわい！ぜったいさせてはならない気持ちがより強まりました。(70代・女性)

*第二次世界大戦知らないことが多すぎた。(80代・女性)

*『さがしています』の感想です。朗読して下さった方々、内容をよく吟味し、読み込んで、表現も工夫して、すばらしかったです。この本ができるまでのビナードさんのお話は聞きごたえがありました。「文学者としてやるべきことは何か」とのご自分への問いかけは、私達への問いかけであると思いました。☆原爆の話…ウン!!(女性)

*『さがしています』は、心に残る詩集なので、朗読を聞かせていただけて、嬉しく思います。ありがとうございました。どちらかといえば、一人での朗読の方が

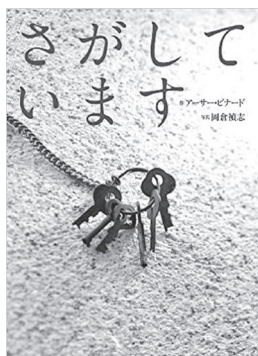
聞きやすいように思います。(0)

* リレー朗読: 読み手が変わるのより一人の人が朗読されるほうがいい気がします。

* アーサーさんによって知る戦争のこと、知らない自分がはずかしいです。『さがしています』の本、なぜ無傷の紫のワンピースを選ばれたのか知りたかったです。

(女性)

* 『釣り上げては』で、アーサーさんを知りました。『さがしています』は、視点の違いとっていいのか、物側からの詩の言葉が刺さりました。(0)



『さがしています』は、アーサー・ビナード作／岡倉禎志写真／童心社出版の作品であるが、作者は詩の創作者というより、遺品が語りかける言葉の通訳者のような気持ちで、この本を制作したとのことである。

特に印象に残った朗読作品として、アンケート回答者の約半数の29名が『さがしています』を選んでいる。2019年から広島平和記念資料館は、それまでの原爆再現人形や再現模型から実物展示に切り替えて、リニューアルしている。この『さがしています』は、その7年前の2012年に発行されている。被爆者の語り部の高齢化が進み、原爆投下の悲劇を伝えることが困難になってきている中で、被爆者が残した「もの」がカタリベになりえるのではないかと判断であろう。平和記念資料館の展示切り替えに先立って、ビナード氏が『さがしています』で7年も前に先取りしているとも言える。語り部をカタリベと表記しているのは、ビナード氏である。

2019年になって平和記念資料館を訪れた人は、『さがしています』展示館になっているとの印象を持ったとの声も聞かれるほどである。ビナード氏自身も被爆者の話ができるだけ聞くようにしたが、実際に話が聞けたことは例外中の例外だとしている。

平和記念資料館の中の2万1千点以上の遺品から、14点を選んで写真を撮ってカタリベになってもらうことにした。遺品の「弁当箱」が何か自分に語りかけてくるように感じたとのこと。岡倉氏と500枚以上の写真を撮ったのだが、白や黒のスクリーンを背景にするのではなく、石を証言台にして、その上で遺品のカタリベに語ってもらおうと思ったとのこと。墓地を歩いて、「広島以外の石以外に、この物語を支える台はありえない」と思い、倉橋島の「議院石」を切り出し、台にしたのだが、その石は国会議事堂にも使われているとのこと。(『さがしています』「あとがき」参照)

表紙の写真は、日本軍の司令部に米軍兵士10余名が収容されていた房の鍵東で、憲兵たちも捕虜たちも等しく放射線と熱戦と爆風にさらされたことを表している。

広島に原爆を落とし14万人を殺したアメリカが加害者で、殺された側の日本が被害者という単純な図式では語れない問題がそこにある。

「一人での朗読の方が聞きやすい」との回答者もあったが、様々な方が被ばくしていることを次々に朗読者を換えて表現したかったというのが企画者の意図である。

5-2. 『ここが家だーベン・シャーンの第五福竜丸』について

- *できれば、本は全て映像で流して欲しかったです。ベンシャーンの絵は、本を広げて見せたのでは、伝わりにくかったです。でも皆さんよく練習されていて、とても内容が伝わってきました。アーサーの話は、とても良かった。(女性)
- *とても勉強になりました。参加できてよかったです。一番印象に残ったのは、『第五福竜丸』です。ざっくりとは知っていましたが、その詳細については、はずかしながら知りませんでした。また、アーサー・ビナードさんのお話の中で、文学者として、今と向き合うことが先決、その為に過去のことも知らないといけない、今の為にというような言葉、強烈でした。(20代・女性)
- *自分ひとりで開いて絵本を読むのとちがって、朗読して頂くことで、より深く物語が迫ってくることを感じました。アーサー・ビナードさんの解説も、原爆のウラン弾とプルトニウム弾の違い、その後の被害を知って、考えないといけないと思う。内部被ばくは、「鼻唄三丁矢筈斬り」だとか、なるほどびっくりです(60代・女性)



『ここが家だーベン・シャーンの第五福竜丸』は、ベン・シャーンが描き残した絵をビナード氏が絵本の形に再構成し、文をつけて集英社から発行された。

ベン・シャーン(1898~1969)は、第五福竜丸の事故調査にかかわったアメリカの原子核物理学者ラルフ・E・ラップ博士(1917~2004)が、月刊誌『ハーバース・マガジン』(1957年12月号、58年1、2月号)に掲載した「第五福竜丸の航海 The Voyage of The Lucky Dragon」というルポルタージュのために40点の挿絵を描いた。この第五福竜丸事件の重大さに注目したベン・シャーンは、1960年来日し、1年がかりで、あらためて「ラッキー・ドラゴン・シリーズ」(Lucky Dragon Series)としてタブロー画を制作した。それらの絵をもとにこの絵本ができた。

「できれば、本は全て映像で流して欲しかった」との声もあったが、発行元にパワーポイントで大寫しにしてもいいか、問い合わせたが許諾が得られなかったため

に、止む無く、一人が絵本を読み、あと二人が絵本を開いて示す形で朗読会を実施した。

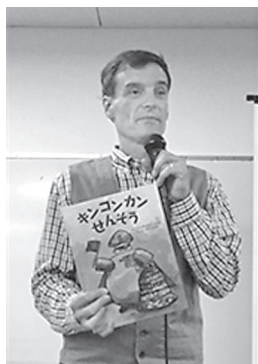
ビナード氏も内部被ばくと外部被ばくの違いがよくわからなかったとのこと。内部被ばくは、「鼻唄三丁矢筈斬り（はなうたさんちょうやはずぎり）」だとビナード氏は説明している。この「鼻歌三丁矢筈斬り」というフレーズはもともと落語からきたものらしいのだが、物凄く斬れる日本刀で斬られると、斬られた方はそれに全く気づかず、その後も鼻歌を歌いながら三丁（約300m）も歩いたあとまっぴたつになって絶命するという話に由来している。

内部被ばくした人は、気づかずに長ければ10年、20年生き続けていて、ある時、身体に異常が出てくるので、誰も責任をとろうとしないという恐ろしさがある。

第五福竜丸の23人の乗組員は、自力で日本に帰ってきたら、放射能病と言われた。その論理でいくと、包丁でさされた人は、包丁病になってしまうというのが、ビナード氏の説明であった。ビナード氏は、第五福竜丸の24人目の乗組員になったつもりで、この絵本をつくり、内部被ばくのことなどを必死で調べたとのことである。

5-3. 『キンコンカン戦争』について

- *アーサーさんのトークもとても身になり、楽しく聞かせていただきました。スタッフの方も入れ替わり皆さんを退屈させないで、とても有意義でグッドでした。キンコンカンまたよろしくネ。(80代・女性)
- *「キンコンカン」の群読は、朗読ならではの“良さ”が感じられました。玉音放送の内容は、日本人の私でも暗記していません。(70代・女性)



『キンコンカンせんそう』（ジャンニ・ロダリー作／ベフ絵／アーサー・ビナード訳／講談社 2010）は、ユーモアあふれる絵本であり、長く続く戦争中、ついに武器にする金属が足りなくなり、ボンボネ・バクレツォーネ・フニャラロッシー大将は、国中の時計塔からも、教会からも、ベルと鐘という鐘を全部集めて来いと命令を出した。溶かして世界一でっかい大砲（どでか大砲）をつくれば、戦争に勝てると信じて武器にしてしまった。イタリア人のロダリーの原作だけにヨーロッパの話であろうが、日本でも、戦時中に金属類回収令が公布され、金属を供出したという苦い経験がある。お寺の鐘や学校や教会の鐘だけではなく、家庭の鍋窯まで供出させられたという記憶につながる。

また、日本では戦艦大和や戦艦武蔵を建造するなど巨艦・巨砲主義に走ったが、その末路は、あまりにも無力で無残、無念なものであった。当時は、艦隊決戦による敵艦隊を撃滅するため大口径の主砲を搭載し、重装甲の艦体を持つ戦艦を中心とする艦隊を指向する海軍軍戦備・建艦政策及び戦略思想に支配されていたのである。

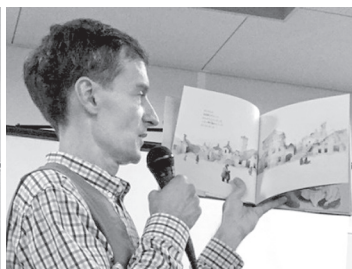
学校や教会の鐘を溶かしてつくった「どでか大砲」からは、砲弾は発射されず、キンコンカンという音がするばかり、ユーモアあふれる絵本であるが、戦中派には、リアルな記憶がよみがえり、心からは笑えないかもしれない。イタリア人のロダリーの原作にフランス人のベフが絵を描き、アメリカ人のビナード氏が日本語に翻訳したという国際的な合作による作品となっている。(前頁と本頁の写真提供：山口智子)

ビナード氏によると『キンコンカンせんそう』の「どでか大砲」は、核兵器を表しているという。つまり、この絵本の中の巨大大砲は、広島へ投下されたリトルボーイ、長崎へ投下されたファットマンだというのだ。戦争を商売にして軍拡競争を加速させる「死の商人」や為政者を風刺して描いた寓話ということになる。

5-4. 『この本をかくして』について

* 平和について考えたいため参加させてもらいました。人に伝えたいことがあると人は生きていて、ありふれた日常が思い出になると思いました。よき人と巡り合えれば、知らないうちに幸せも知らせも訪れるかもしれないと思いました。Treasure Boxが気に入りました。心にひびきました。(30代・女性)

* 初めて伺いました。活動は、ニュースで知っていて、興味があつて。語りと写真と音楽とビナードさんのお話で、深く作品を感じることができました。(0)



戦争の爆撃で町も図書館も燃えてしまった。図書館から借りた大切な本を守りながら、ピーターとお父さんは町を離れることとなった。

『この本をかくして』は、マーガレット・ワイルド 文／フレヤ・ブラックウッド 絵／アーサー・ビナード 訳／岩崎書店2017年発行の絵本である。

対象年齢は、小学校低学年とされているが、大人でも平和について真剣に考えさせられる素材であり、深みのある絵本である。お父さんは、ピーターに赤い表紙の本を見せて、次のように語った。

「ほくらにつながる、むかしの人たちの話がここに書いてある。おばあさんのおばあさんのこと、おじいさんのおじいさんのまえのことまでわかるんだ。ほくらがどこからきたか、それは金よりも銀よりも、宝石よりもずっとだいじなんだ」。

民族の歴史、誇りとは何なのか。戦争で失われたもの、守ったものを親子で考えさせる絵本となっている。

アンケートの回答に「Treasure Boxが気に入りました。心にひびきました。(30代・女性)」とあったが、その「Treasure Box (宝の箱)」というのは、『この本をかくして』の原題である。ピナード氏は、朗読会で参加者に、次のように問いかけている。

この「Treasure Box (宝の箱)」というのは、何のことですか？ピーターのお父さんが大切にしていた本を入れていた箱ということも考えられるが、ピナード氏は、この「Treasure Box (宝の箱)」というのは、図書館のことですと断言した。

絵本の中でも、避難している途中で、大切にしていた本を木の根元に穴を掘って隠して、戦後平和になってから、掘り返し、再建された図書館にその本を返している。この絵本は、どこの国のいつの時代の話かは記されていないが、戦時中のあちこちで起こった出来事であると山陽小野田市立中央図書館長の山本安彦氏は解説している。

「こどもと本ジョイントネット21・山口」は、2019年8月29日（木）、山口県立山口図書館で、第119回やまぐち絵本楽会「最近の絵本の収穫」を開催した。その中で、山本安彦氏は、「最近の絵本の収穫」として10冊の絵本を紹介したが、その中に『さがしています』と『この本をかくして』の2冊が含まれていた。『さがしています』と『この本をかくして』の著者が、自著を解説する企画はNGで、同じ本を山本氏が紹介するのはOKというのは、到底合点のいかぬところである。

ちなみに、2019年7月25日（木）には、山口県ピースアクション実行委員会の「やまぐちピースフォーラム2019・継承－次世代へつなぐ平和への思い－」が山口市平和首長会議などの後援を得て、山口県立山口図書館のレクチャールームで開催されている。山口市の渡辺純忠市長も参加しており、「市報やウェブサイトを通じて、広島・長崎への原爆投下日（8月6日・9日）および終戦記念日（8月15日）にサイレンを吹鳴することを周知するとともに、1分間の黙とうをお願いしています。市民団体等の行う平和関係行事について、積極的に参加・支援しています」とのコメントを寄せている。

ピナード氏は、『この本をかくして』の翻訳をしただけではない。白っぽい本のカバーをはずすとTreasure Boxと書かれた本の本体の赤い表紙が現われるしかけを考えて、原作者の許可を得て、日本での出版を実現したのである。原作には、そのような工夫はなかった。

多くの図書館では、絵のある白っぽい本のカバーを本体に貼り付けてしまうので、利用者は、中に赤い表紙が「かくして」あることに気づかずに本を返却してしまう。図書館としても、何とか中の赤い表紙が見られるように工夫してほしいものである。

5-5. ビナード氏について（この枠内では、アーサー・ビナードをA・Bと略記）

- * A・Bさんと本当のことを知り本当のことを知らせていきたいです。(50代・女性)
- * 時間を忘れ、もっとお話が聞きたいくらい、魅力的なお話でした。祝島の原発反対で裁判所で、並んでいたとき、A・Bさんも参加されていたことを思い出しました。広島島の鞆町教会でのお話も聞いたことなど、すごい活動されていること、すばらしいです。(70代・女性)
- * 大変有意義な朗読会をありがとうございました。A・Bさんの考え方（思想）も良く理解できて、嬉しかった。(70代・男性)
- * A・Bさんのお話がよかった。何度か、これまでも聞かせていただいています、目からウロコ、さらなる発見をしました。(0)
- * A・B氏の話は、とても理解できた。(70代・女性)
- * A・Bさんが、大学までアメリカで育ちながら、日本に来て、その考えが私と同じところが多いのに感激しました。(70代・男性)
- * A・Bさんのお話が楽しかった。(80代)
- * 本の背景etc.を含めて、アーサーさんが話して下さったのは、良かったです。(0)
- * A・Bさんのお話はユーモアたっぷり、たとえ等おもしろく、わかりやすく、とても良かった。でも本当に怖い話です。しっかり受けとめていかなければと思いました。(0)
- * A・Bさんのお話だけでなく、声の力を感じることができて、嬉しい発見でした。ギターの色音が、そこに更に心を揺さぶってくれました。(60代・女性)
- * フェルミ原発のインペイは知らなかった。ペテンタゴンだ!! (70代)

「アーサー・ビナードさんは、アメリカ人だから、英語で講演するのか、誰が通訳するのか」との問い合わせが事前にあったが、広島県の遺品のカタリベとの通訳者として日本語で詩を書く人だから通訳はつけないと返答した。

また、「アーサーさんは日本語が上手ですね」という人がいるが、30年近く日本に住んでいる人にそう言うのは、むしろ失礼であろう。もちろん母国語に比べて日本語がわかりにくい点もあるだろう。英語母語話者の場合、日本語の本を母語の英語に翻訳することは容易かもしれないが、逆に外国語で書かれた本を日本語に翻訳する方

が、何倍も困難だからである。ビナード氏は、日本語母語話者ではないが、外国の絵本を日本語に翻訳して日本に紹介する仕事を数多く手がけているのは、驚嘆に値する。

日本では、翻訳を学術的な業績として認めない傾向がある。日本の大学では、翻訳作品を一切業績として認めないところもあるし、認めたとしても論文の二分の一にしかカウントしないところもある。異文化理解・異文化交流の観点からは、翻訳作品も論文と同等の価値として認める必要があると思われる。

60代・女性の「アーサー・ビナードさんのお話だけでなく、声の力を感じることができて、嬉しい発見でした」との記述があったが、ビナード氏（2014）は、「友人を通じて金春流（こんばるりゅう）の能楽師に出会い、その門をたたいて稽古を始め、少しずつ丹田（たんでん）から声が出せるようになり、謡の文句もわかってくると…（中略）無駄な声は出さない。でもそれよりも、大きな力を腹にため、体内にそれが満ちて沸騰しそうになるまで抑えて、抑えつつも出す」とエッセイに書いている。

上記の「祝島の原発反対で裁判所で、並んでいたとき、アーサー・ビナードさんも参加されていたことを思い出しました。広島島の幟町教会でのお話も聞いたことなど、すごい活動されていること、すばらしいです。（70代・女性）」との記述があった。

水内（2010）は、「積極的に行動する詩人」としてビナード氏を紹介し、妻の木坂涼氏のことを「気楽に話ができる嬉しさ」と評している。木坂涼氏も詩人としての活動だけでなく、前述の「街の朗読屋さん」が2018年に「平和を考える紙芝居と絵本＋お話し会」で使用した絵本『おしっこぼうや』の翻訳者である。

ビナード氏と木坂涼氏の共編訳として『がらがらへびの味—アメリカ子ども詩集一』（岩波少年少女文庫196）がある。

フランスの実存主義の用語で表現するならば、ビナード氏と木坂涼氏は、現代のアンガージュマン（engagement）と言えるであろう。「文学者としてやるべきことは何か」と自らに問いかけながら、現代日本の置かれている状況に自らかかわることにより、現代の歴史を意味づける自由な主体として生き、創作活動を続けている。サルトル・カミュなどに匹敵するような政治的・社会的参加と態度決定を実践している。サルトルの「運命に従って人間は行動しているのではない、行動によって、人間の運命が変わる」という生き方をビナード氏と木坂涼氏は、選択していると言えるであろう。

「フェルミ原発のインペイは知らなかった。ペテントゴンだ!!（70代）」というのは、アメリカのデトロイト郊外にある高速増殖炉試験炉「フェルミ原発（エンリコフェルミ1号）」がメルトダウン（炉心溶融）したのに、重大事故に至らなかったために、その事故が隠蔽されて、日本ではほとんど知られていないことを意味している。

「ペテンタゴン」というのは、ビナード氏の造語であると思われるが、「ペテン（い
つわりだますこと）+ペンタゴン（アメリカ国防総省）」の皮肉った合成語である。

5-6. 平和について考える

- *とても楽しい朗読会でした。山口の地で平和をテーマにしたこんな朗読会がある
なんて、とってもよかったです。8月がステキな月になりました。平和大好きな
一市民です。(60代・女性)
- *朗読もよかったし、何よりもビナードさんの話が、期待以上によく、あらためて、
平和について考える本当によい機会となりました。(60代・女性)
- *こんな形で、平和のことを考えることができたのが、新鮮でした。(60代・女性)
- *楽しい例えで、わかりやすく戦争で起きたことを教えて頂きました。翻訳の工夫
も知ることが出来て、とても勉強になりました。(30代・女性)
- *平和について、いろいろな気づきをいただいた。ありがとうございました。(0)

「8月がステキな月になりました（60代・女性）」との記述があるが、平和を考える
のは、なにも8月に限る必要はない。広島・長崎への原爆投下、終戦記念日が8月であ
ることから、8月に「平和を考える」催しが各地で開かれているだけで、別の時期に
平和について考える機会をつくってもいいはずである。

1954年3月1日は、アメリカは太平洋ビキニ環礁において広島型原爆の約1000倍の威
力をもつ水爆実験（ブラボー）をおこない、その核実験によって、マーシャル諸島の
人びとや多くの日本漁船などが被災した日である。第五福竜丸が死の灰を浴びた日を
記念して設けられた原水爆禁止運動の日であり、ビキニデーとして知られている。

3月1日のビキニ事件を風化させないように、『ここが家だ ベン・シャーンの第五
福竜丸』を朗読し、あらためて考えてみるのがあってもいいだろう。

また1945年3月10日未明に起きた東京大空襲を忘れないように、さらには、2011年3
月11日に発生した東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）による災害およびこれに伴
う福島第一原子力発電所事故について考えることも「平和を考える」ことにつながる
であろう。絵本『ドームがたり』には、原爆と原発の関係が語られている。

5-7. ビナード氏に学校に来てほしい

- *ありがとうございました。とてもよかったです。小学生、中学生にも聞かせたい
話でした。私は学校司書をしているのですが、ぜひ学校にも来ていただけたら、
心に響くだろうと感じました。アーサーさんも、ぜひ小学校にと行っていらした

ので、そうしてもらいたいです。(40代・女性)

*知らないことが沢山あり、平和についていろいろと考えさせられました。アーサーさんがこんなに楽しい方とは！勤務している学校にもぜひお越しいただきたいと思いました。(60代・女性)

*読んでくださった皆さんの素晴らしい朗読でした。一つ一つの詩を大切に読んでいらっしゃいました。アーサー・ビナードさんのお話も大変わかりやすく、想いが脈々と波うっていることが伝わってきました。よい本に出会えました。機会があれば今の職場で読み聞かせをしたいです。(50代・女性)

「小学生、中学生にも聞かせたい」との学校司書の方の声も上がっており、学校での平和学習の一環として「アーサー・ビナードとともに平和を考える」機会をつくってほしいものである。また「機会があれば今の職場で読み聞かせをしたいです。(50代・女性)」との言葉もあり、文字通り朗読会の「リレー朗読」の輪が広がり、世代から次世代へのバトンが渡っていくことが望ましいと思われる。

5-8. 朗読・朗読会の企画について

*すばらしい企画、有難うございました。図書館論ダイサンセイ!!もっと聞きたい!! (90代・女性)

*印象に残る朗読会でした。また、参加したいです。(10代・女性)

*身につまされる作者の言葉の数々…良かった！ 朗読屋さん…マイクの使い方、聞いてもらう姿勢不足、作者の言いたいポイントの間の取り方、要工夫です。(0)

*リレー朗読の試みが、とても良かったです。(0)

*朗読も、みなさんリレーで、または分担でとても良かった。(0)

*少人数で意見交換しながら読んでも意義深くなると思います。(0)

上記のように、「すばらしい企画 (90代・女性)」「印象に残る朗読会でした。また、参加したいです。(10代・女性)」との声がある一方で、「朗読屋さん…マイクの使い方、聞いてもらう姿勢不足、作者の言いたいポイントの間の取り方、要工夫」との厳しい指摘もあり、反省点も多い。

朗読方法も「みなさんリレーで、または分担でとても良かった」との好印象がある一方で「少人数で意見交換しながら読んでも意義深くなる」との見方も示された。

後日(10月12日、12月14日、2月15日)山口児童館でアーサー・ビナード研究会を開催し、少人数で意見交換しながら作品を味わい読んでいく試みが行なわれた。

5-9. 絵本との出会いについて

- *本の制作に関わる話、本の絵の見方、本にこめた思いなど聴けてとてもよかった。(60代・女性)
- *ありがとうございました。絵本のもつ意味深さに感動しています。(60代・女性)
- *今の世界で、私たちが求めるべき哲学(本質)を絵本を通して語っていただき、理解することが出来た様な気がします。(50代・女性)
- *アーサーさんが、絵本にこめられた思いが伝わりました。聞いてみて、そうだったのかと思いました。ありがとうございました。(0)
- *たかが絵本、されど絵本、奥の深さを実感しました。ビナードさんのお話を聞いて!!(女性)

一般書籍の販売が伸び悩んでいる中で、絵本の売れ行きは上昇していると聞く。子ども向けの絵本という位置づけだけでなく、「絵本のもつ意味深さに感動しています。(60代・女性)」という大人がいる。また「今の世界で、私たちが求めるべき哲学(本質)を絵本を通して語っていただき、理解することが出来た」(50代・女性)という人もいる。「絵本は無駄をそぎ落したシンプルな構成だけに、込められたメッセージには、深いものが多い」との声も聞かれる。

近年、「哲学カフェ」が盛んになり、宇部図書館などでも2019年に連続して「哲学カフェ」が行なわれ、定員を上回るほどの人気があった。上記のように、絵本を通して哲学を語り、求める世界を考える試みが、今こそ必要なのではないかと思われる。

「たかが絵本、されど絵本、奥の深さを実感しました」との感想は、主催者と参加者が共有した実感であろう。

5-10. その他

- *「ちっちゃいこえ」が聞けるようになること。そのための学びをさがすこと。責任として。(60代・男性)
- *楽しい時間を有難うございました。(80代・女性)
- *「聞けない話ほど、聞かなければならない」と言われたのが、強く残っている。安易に入手できる情報にまどわされず、大事なことを見極める力をつけることが必要だ。(女性)
- *知らないことは、恐ろしいこと。今何が起きているのか、何をしなければならぬのか、よく知って、しっかり考えて、行動することが大切と感じました。(0)

「聞けない話ほど、聞かなければならない」とビナード氏は、述べているが、同氏の「アーサー・ビナード午後の三枚おろし」という文化放送のラジオ番組をKRY山口放送がラジオで流していたのであるが、2019年9月末で放送が打ち切られた。何の打ち切りの告知もないまま、理由も経緯もリスナーには一切知らされずに、いきなり打ち切りとなったのである。KRYラジオ番組編成局宛に60名の署名を添えて、放送打ち切りの経緯と理由を開示し、放送を再開する要望を書面で提出したのであるが、回答期限の10月31日までに回答は得られなかった。電話で問い合わせたところ、既定方針であるから再開はできない、その理由は開示できないとの一点張りであった。放送打ち切りは、スポンサーからのクレームによるものではないことは電話のやりとりで、明らかになったが、では何故に打ち切りになったのかは、不明のままで、公共の電波を使つての放送局が説明責任を果たしているとは、到底言えない事態である。

一説には、ビナード氏が10月の初旬の同番組の中で、山口県立山口図書館での朗読会の共同主催を同館長と副館長に断られたことを話したために、その直前にKRY山口放送の側がラジオ番組を打ち切ったのではないかとささやかれている。ラジオ放送が、時の政治勢力に忖度して、放送を中止したとしたら、それは大きな問題である。

ビナード氏のアンガージュマン（engagement）の姿勢は、上記の「今何が起きているのか、何をしなければならないのか、よく知って、しっかり考えて、行動することが大切と感じました」という参加者に共感的に伝わり、大きな影響を与えていると言えるだろう。

6. まとめと考察

以上、見てきたようにビナード氏の絵本の朗読を通して、平和の問題を考えることができた。また、今回の朗読会場を図書館内に設定することに横槍が入り、図書館外に設定したが、まさに『この本をかくして』などは、図書館でこそ朗読すべき絵本であることを図書館関係者は、自覚してほしいものである。図書館は単なる書庫ではない。コミュニケーションの場であつてこそ、図書館が生きてくる。世代を超えて伝えていくべき貴重な本は、書庫に眠らせておくのではなく、声を出して読み上げ、次世代の人々と語り合うことによって、伝わっていくものである。

山口の地でも、かつてGHQ（連合軍総司令部）による没収を察知し、図書館の本を燃やして自ら処分してしまうような動きもあったが、その際に貴重な本を燃やしてしまうのは、あまりにも忍びないと本を自宅に持ち帰って隠した職員がいたと聞く。そのような個人の手によって守られた本が、後に山口大学の東亜経済研究所に所蔵され、現在の山口大学附属図書館に受け継がれているとのことである。そのあたり

の事情に関連して大庭（2015）は「連合国軍による図書の没収」について報告している。

さらに金高（2013）は「疎開した40万冊の図書」として図書館が戦時中の空襲から本を安全な場所へ疎開させたことを調べて報告している。

戦時中のあちこちで起こった出来事であると山陽小野田市立中央図書館長の山本安彦氏が解説している通り、戦火から本を守ろうとした図書館員の貴重な努力もあってこそ、現在の図書館が機能しているのである。このことを忘れてはならない。

7. 今後の課題



今後の課題は、前述の5-10の参加者の記述に『ちっちゃいこえ』が聞けるようになること。そのための学びをさがすこと。責任として。(60代・男性)」と記述されている。8月11日の朗読会では上演することができなかった紙芝居『ちっちゃいこえ』（アーサー・ビナード 脚本／丸木俊・丸木

位里 絵／「原爆の図」より16場面／童心社2019年5月発行）が聞けるような場を設定し、内容について考え、語り合える機会をつくることであろう。

猫好きのビナード氏の初の紙芝居であり、そのネコが主人公として語るのは、家族のこと、命をつくりつづける体の中のちっちゃい声のこと、ヒロシマのことなどである。「わたしたちはどうすれば生きていけるのか？」との問いかけが、美しい絵から響いてくる、参加者一人ひとりが耳をすます紙芝居の上演を実現したい。

「アーサー・ビナードとともに平和を考える」朗読会の共同主催の提案が断られた2019年5月に発行されたビナード氏の紙芝居『ちっちゃいこえ』であるが、すでに山口県立山口図書館に収蔵されており、一般に貸し出されている。

2019年11月偕成社発行のモーリス・センダックの『父さんがかえる日まで』もビナード氏の翻訳である。モーリス・センダックといえは『かいじゅうたちのいるところ』で親しまれているが、このようなあらたに出された絵本も朗読して紹介したい。

また、山口児童館で3回のアーサー・ビナード研究会を開催したが、今後も偶数月に会合を持ちたいと計画している。ビナード氏の絵本を参加者各自が持ち寄り、ブック・トーク形式で学び合う内容にしたいと考えている。

少人数の場合は、一人5分の持ち時間で、自己紹介を兼ねてビナード氏の作品の中からお勧めの作品を紹介し、次の5分で参加者からの質問に答えるという朗読カフェ形式で進めたい。ビナード氏の作品の愛好者に限らず、読書会として進めたい。

さらに発展的には、上述のように絵本や紙芝居を通して人生哲学を語り、互いに求める世界を考えられるような「哲学カフェ」につなげていきたいと考えている。

【参考文献】

- アーサー・ビナード（2014）「危険な再会のために」日本文藝家協会編『ベスト・エッセイ2014』光村図書、pp.16-21
- 大庭平四郎（2015）「山口経済専門学校における連合国軍総司令部による図書の没収」『東亜経済研究』73号、pp.17-24（リポジトリID：C040073000203）
- 菅谷明子（2003）『未来をつくる図書館 -ニューヨークからの報告-』岩波書店〈岩波新書837〉
- 水内喜久雄（2010）「ステキな詩に会いたくて—54人の詩人をたずねて—」小学館、pp.88-93

【参考資料情報】

- 山口新聞（2019年8月12日付け記事）「戦争の愚かさを伝える・山口市で絵本の朗読会・中也賞の詩人、アーサー・ビナードさん執筆、翻訳の想い解説」
- 毎日新聞（2019年8月12日付け記事）「平和活動に取り組む詩人アーサー・ビナードさん作品朗読会・絵本で被爆者遺品を『語り部』に・山口で100人聴き入る」
- 長周新聞（2019年8月19日付け記事）「絵本で見つめる日本と世界の平和・アーサー・ビナードと平和を考える朗読会・山口の朗読屋さんが主催・文学で現代社会と向き合う」
- 文芸戦士（2019年10月1日付け記事）「世界の平和を絵本で見つめる・山口の朗読屋さんが開催・アーサー・ビナードと平和を考える朗読会」（劇団はぐるま座発行）

▼以下に、山口新聞の2019年8月12日の記事と山口の朗読屋さんが作成した「アーサー・ビナード関係著作資料」（2019年12月31日現在）を示す。

「図書館」の欄は、実際に借りた履歴などをもとに主として山口市内の所蔵図書館を示している。網羅的には、「山口県立山口図書館ホームページ」内の「山口県内図書館横断検索」を用いると、どの図書館にあるかがわかる。「区分」の中の「絵本の翻訳」は日本語の絵本を英訳したもの、「翻訳絵本」は外国語の絵本を日本語に翻訳したものを指す。著作は全部で71点になるが、抜けているものや不備があれば訂正したいので、連絡していただきたい。（山口市維新公園1-12-5 山口の朗読屋さん 林 伸一）



朗読した絵本について解説するアーサー・ビナードさん=11日、山口市

山口市で絵本の朗読会

中原中也賞を受賞した米国出身の詩人、アーサー・ビナードさん(59)が広島市に執筆や翻訳で携わった平和をテーマにした絵本の朗読会が11日、山口市小郡下郷の小郡ふれあいセンターであり、市民ら87人が参加した。

戦争の愚かさ伝える

中也賞の詩人、アーサー・ビナードさん 執筆、翻訳の思い解説

原爆や戦争、平和について考えてもらおうと、朗読会などの活動に取り組み「山口の朗読屋さん(林伸一代表)」が2018年から開き2回目。山口の朗読屋さんのメンバー9人が「キンコンカンせんそう」「さがしています」など4作品を朗読。各作品の著者、翻訳者であるアーサーさんが背景や込められた思いなどを解説した。アーサーさんが翻訳した「キンコンカンせんそう」では、戦争した両国が人々からベルを集めて作った大砲「ド」でかたいほう「が」広島と長崎に落とされたり発の原爆を象徴していると紹介。一部の人がもうけるために核兵器が存在することを見抜いた筆者が、どこかたいほうに戦争が愚かであるという思いを込めたと話した。

山口市吉敷上東の県庁職員、庄栄一郎さん(56)は「絵本で新しい原爆の捉え方を聞き、戦争の悲惨さが強烈に伝わってきた」と話した。

〈付記〉 山口大学附属図書館には、ビナード氏の著作物が『日々の非常口』『日本語ほりほり』『釣りあげては』『あつまるアニマル』『ホットケーキできあがり』『ここが家だーベン・シャーンの第五福竜丸』の6点所蔵されている。

紙幅の関係から、他の大学図書館については、別途、調査して報告したい。

〈謝辞〉 上記の記事の転載を快く承諾していただいた山口新聞と本文中の写真掲載に協力していただいたビナード氏と山口智子さんに心より感謝いたします。

アーサー・ビナード関係著作資料

(2019年12月31日現在)

出版年	書名	文	絵(写真)	訳	出版社	頁数	図書館	区分
1998	おいカナブーン	アーサー・ビナード			福音館書店	24	県立	絵本
1999	Our cup of tea ティータイムがとく、い	アーサー・ビナード	牛嶋浩美		創栄出版・星雲社	33	中央	絵本
2000	釣り上げては	アーサー・ビナード			思泉社	111	県立ほか	詩集
2000	コッコさんのともだち Kokko and friends	片山健		アーサー・ビナード(英訳)	福音館書店	23	中央	絵本の翻訳
2000	かじだ、しゅつどう Fire! We're on the way!	山本忠敬		アーサー・ビナード(英訳)	福音館書店	23	中央	絵本の翻訳
2001	カエルのおんがくたい	アーサー・ビナード			福音館書店	24	県立	絵本
2001	どんなきぶん?	サクストン・フライマン		アーサー・ビナード	福音館書店	44	県立	絵本
2002	カーロ、せかいをよむ	ジェシカ・スバニョール		アーサー・ビナード	フレーベル館	28	県立	翻訳絵本
2002	カーロ、せかいをかぞえる	ジェシカ・スバニョール		アーサー・ビナード	フレーベル館	28	県立	翻訳絵本
2004	くうきのおお	アーサー・ビナード	スタジオ トラミーケ		福音館書店	32	県立	絵本
2005	うごく浮世絵!		よぐち たかお	アーサー・ビナード(英訳)	福音館書店	32	県立	絵本の翻訳
2005	14ひきのびくにつく(英語版)	いむむら かずお	いむむら かずお	アーサー・ビナード(英訳)	童心社	32	県立	絵本の翻訳
2005	14ひきのかぼちゃ(英語版)	いむむら かずお	いむむら かずお	アーサー・ビナード(英訳)	童心社	32	小郡	絵本の翻訳
2005	14ひきのおさごはん(英語版)	いむむら かずお	いむむら かずお	アーサー・ビナード(英訳)	童心社	32	県立	絵本の翻訳
2005	14ひきのおつきみ(英語版)	いむむら かずお	いむむら かずお	アーサー・ビナード(英訳)	童心社	32	県立	絵本の翻訳
2005	14ひきのおつきみ(英語版)	いむむら かずお	いむむら かずお	アーサー・ビナード(英訳)	童心社	32	小郡	絵本の翻訳
2005	日本語ほりぼり	アーサー・ビナード			小学館	221	県立	エッセー集
2005	ガンダライオン	ドン・フリーマン		アーサー・ビナード	福音館書店	48	県立	翻訳絵本
2006	日々の非常口	アーサー・ビナード			朝日新聞社	237	中央・小郡	エッセー集
2006	出世ミズ	アーサー・ビナード			集英社文庫	251	宇部・防府	エッセー集
2006	焼かれた魚	小原秀雄	市川曜子	アーサー・ビナード(英訳)	パロル舎	43	小郡	絵本の翻訳
2006	こが家だべん・シャーマンの第五巻丸	アーサー・ビナード	ベン・シャーン		集英社	57	阿知須	絵本
2006	はらのなかのはらっぱで	アーサー・ビナード	アーサー・ビナード	長野 仁	フレーベル館	32	阿知須	絵本
2007	日本の名詩、英語でおどる	萩原朔太郎・中原中也ほか		アーサー・ビナード(英訳)	みすず書房	150	県立	翻訳集
2007	左右の安全	アーサー・ビナード			集英社	123	小郡	詩集
2007	ひとびとぼち?	フィリップ・ヴェヒター	フィリップ・ヴェヒター	アーサー・ビナード	徳間書店	64	県立	翻訳絵本
2007	茶の本の100年 岡倉天心国際シンポジウム	アン・ニムラ・モース		アーサー・ビナード(執筆)	小学館スクウェア	231	県立	一般
2008	詩の風景 ゴミの日	アーサー・ビナード	古川タク		理論社	142	県立	詩集
2008	空からきた魚	アーサー・ビナード			集英社文庫	304	中央・阿知須	エッセー集
2008	あつまるアニマル	ブライアン・ワイルドスマス		アーサー・ビナード	講談社	48	県立	翻訳絵本
2008	賞味期限知らず	吉田照美×アーサー・ビナード			小学館	111	中央	対談集
2009	どうして どうして?	トニー・ストン	ポール・ハワード	アーサー・ビナード	小学館	26	県立	翻訳絵本
2009	ふしぎの国のアリス	ジョン・シェスカ	メアリー・フレア	アーサー・ビナード	講談社	56	県立	翻訳絵本
2009	ホットケーキのできあがり	エリック・カール	エリック・カール	アーサー・ビナード	偕成社	29	阿知須	翻訳絵本
2009	シンデレラ ディズニープリンセスプレミアムコレクション	アーサー・ビナード			講談社	63	秋徳	絵本
2009	つみきのいえ Once upon a Home upon a Home	加藤久仁生		アーサー・ビナード(英訳)	白泉社	44	県立	絵本の翻訳
2010	キンコンカンせんそう	ジャンニ・ロダリー	ペフ	アーサー・ビナード	講談社	25	阿知須	翻訳絵本
2010	はじまりの日 forever young	ボブ・ディラン	ポール・ロジャース	アーサー・ビナード	岩崎書店	36	県立	翻訳絵本
2010	カエルもヒキガエルもうたえる	アーノルド・ローベル	エイドリアン・ローベル	アーサー・ビナード	長崎出版	29	阿知須	翻訳絵本
2010	ことばがガネ(考える絵本8)	アーサー・ビナード	古川タク		大月書店	32	県立	絵本
2010	ガラガラヘビの味 アメリカ子ども詩集	アーサー・ビナード・木坂源編訳		アーサー・ビナード・木坂源	岩波書店	190	県立	翻訳詩集
2011	どうぶつどうしてどんどんどんと	マイケル・フォアマン	マイケル・フォアマン		小学館	36	県立	翻訳絵本
2011	亜米利加二毛負ケズ	アーサー・ビナード			新潮文庫	262	中央	エッセー集
2011	タンゴがたいへん!	シャロット・ミドルトン	シャロット・ミドルトン	アーサー・ビナード	鈴木出版	25	県立	翻訳絵本
2011	ほんとうのサーカス	ミッチャ・ダムヤン		アーサー・ビナード	BL出版	31	県立	翻訳絵本
2012	さがしています	アーサー・ビナード	岡倉植志(写真)		童心社	32	県立	写真詩集
2012	泥沼はどこだ	アーサー・ビナード×小森陽一			かもがわ出版	308	平尾町	対談集
2012	イッツア・スモールワールドみんなとなりどうし(ディズニープリンセス)	アーサー・ビナード		ジョーイ・チョウ	講談社	37	県立	絵本
2012	ひとのあかし	若松文太郎(詩)	斎藤さだむ(写真)	アーサー・ビナード(英訳)	清流出版	144	小郡	翻訳詩集
2012	プレゼント	ボブ・ギル	ボブ・ギル	アーサー・ビナード	ほるぷ出版	32	阿知須	翻訳絵本
2012	小池邦夫の落書帖	小池邦夫		アーサー・ビナード(英訳)	文化学園文化出版局	239	阿知須	一般図書
2013	このフクロウったら! このブタったら!	エイドリアン・ローベル	エイドリアン・ローベル	アーサー・ビナード	長崎出版	32	阿知須	翻訳絵本
2013	雨ニモマケズ Rain Won't	宮沢賢治	山村浩二	アーサー・ビナード(英訳)	今人舎	32	県立・小郡	絵本の翻訳
2013	プレゼントのはじまり	エリック・カール	エリック・カール	アーサー・ビナード	偕成社	32	小郡・阿知須	翻訳絵本
2013	かゝぞくゴックン	ジョニー・ダド		アーサー・ビナード	ポプラ社	33	県立	翻訳絵本
2013	アーサーの言の葉食堂	アーサー・ビナード			アルク	207	中央	エッセー集
2014	えをかかく	エリック・カール	エリック・カール	アーサー・ビナード	偕成社	25	阿知須	絵本
2014	すばらしいみんな ルイ・アームストロングの「ワット・ア・ワッダフル・ワールド」	ボブ・シール&ジョージ・ザヴィッド・ワイズ	ティム・ホブグッド	アーサー・ビナード	岩崎書店	29	県立	翻訳絵本
2014	ベスト・エッセイ 2014	日本文藝作家協会編		アーサー・ビナード(執筆)	光村図書出版	357	小郡	エッセー集
2015	いちばんのなかいしさん	エリック・カール	エリック・カール	アーサー・ビナード	偕成社	23	小郡	翻訳絵本
2015	もしも、詩があったら	アーサー・ビナード			光文社新書	271	宇部・防府	詩論
2016	おかあさんがおかあさんになった日(英語版)	長野ヒデ子		アーサー・ビナード(英訳)	童心社	32	県立	絵本の翻訳
2017	知らなかった、ほくら戦争	アーサー・ビナード編著			小学館	256	県立	戦身体験談
2017	なすずこのっ?	カソン・エリス		アーサー・ビナード	フレーベル館	48	中央	翻訳絵本
2017	この本をかいて	マーガレット・ワイルド	フレグ・ブラックウッド	アーサー・ビナード	岩崎書店	30	阿知須	翻訳絵本
2017	みんなみんないただきます	ハット・ジロー・ミラー	ジル・マイケルマリー	アーサー・ビナード	BL出版	32	中央	絵本
2017	ドームがたり	アーサー・ビナード			玉川大学出版部	34	県立	絵本
2018	わたしの森に	アーサー・ビナード	田島征三		くもん出版	34	阿知須	絵本
2018	ずつとずつとかぞく	ジョエル・サートレイ	ジョエル・サートレイ写真	アーサー・ビナード	ハーバー・コリンズ・ジャパン	48	県立	翻訳絵本
2019	ちっちゃいこえ	アーサー・ビナード	丸木俊・丸木位里		童心社	16	県立・宇部市	紙芝居
2019	父さんがかえる日まで	モーリス・センダック	モーリス・センダック	アーサー・ビナード	偕成社	40	山口・周南	翻訳絵本